

大学1年の秋、私は3週間ほど米沢の松が岬にある自動車学校に免許合宿のため通っていました。担当になった教官のS先生はぶっきらぼうで、運転にも非常に厳しい方。正直、これから3週間も共に過ごすことが憂鬱でした。

毎日のように怒鳴られ、MTからATにコースを変えようかとも思ったほどでしたが、負けず嫌いな私は、なんとしてでもS先生に認められたい！と思い必死で食らいつきました。

合宿も終盤に差し掛かってくると運転にもだいぶ慣れ、怒られることも少なくなっていました。そんなある日、S先生はいつもと違う道へ案内し始め、私は言われるがままに運転しました。

そしてたどり着いたのはコンビニ。先生は「ちょっと待ってて」と私に言い残し、車を出てコンビニに入っていました。そして数分後、先生は何やら四角い箱を引っさげて戻ってきました。そして助手席に座り一言「誕生日おめでとう」。予想外過ぎて、言葉を失いました。その日は私の誕生日だったのです。ですが、まさかあの寡黙で恐ろしい教官が私の誕生日を祝ってくれるなんて、しかもケーキまで予約してくれていたなんて、夢にも思いませんでした。大きなホールケーキでしたが、嬉しすぎてその日の夜にひとりで全部食べてしまいました。

そして迎えた最終日。卒業試験のあと、S先生は「安心して助手席に乗れたよ。よく頑張った。卒業おめでとう。」そう言って私の肩をポンポンと叩きました。先生に認められた嬉しさと同時に、急に寂しさが込み上げてきました。もう先生の教えを受けることはできないんだな、と。

私はまた必ず米沢に帰ってくることを誓い、先生に別れを告げ、東京へ向かう新幹線に乗ったのでした。

それから4年半経った今、無事故無違反を守り続けられているのは、S先生のおかげかもしれません。